

C : 「レッテンバッハ村に学ぶ 能勢町復活の鍵」

小路昌秀、畑朝飛、倉脇直哉、大西梨衣奈、村上美咲

〈はじめに〉

グループCが取り組んでいる課題は、消滅可能性都市である能勢町が復活するためにすべきことは何かというものである。今回は一度消滅してしまったところから、見事に復活し雇用を生み出し村内で自給自足を行うにとどまらず、自家発電により電気を販売するなど、独自の経済力を持つまでに至ったドイツのレッテンバッハ村から能勢町の地域創生の鍵を学ぶ。

〈事例紹介〉

ドイツの南東バイエルン州に位置するレッテンバッハ村は、面積約 13 平方キロメートルで人口は約 800 人の村である。

レッテンバッハ村は村の復活のために様々なことを行った。一つ目は、地域の天然資源を使った地産地消である。地域の森から木材を集め、薪ボイラーを作り村内全ての暖房をまかなった。また、その薪を購入する際、タールという独自の地域通貨を使用し、お金を村内循環させることに成功した。薪ボイラーを使ったエネルギーとお金の村内循環が可能になったのは、レッテンバッハ村は地域内に天然資源である木材を確保できるという条件が整っているからである。

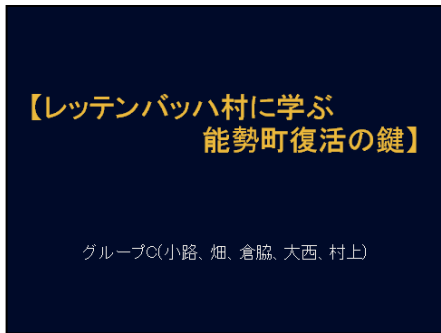
二つ目は地域発企業の存在が挙げられる。レッテンバッハ村では地域発の企業が複数あり、例えば、金属加工や機械製作を行っているある企業では、見習い制度というものを導入し年間 10 人程度の若者を受け入れ、高いレベルのエンジニアを養成する場を作っている。高レベルの技術が習得できることで、村外で高等教育を受けた若者たちが返ってくる場ともなり長期的な雇用の確保を実現している。

三つ目は太陽光発電によるエネルギーの自給自足である。ドイツでは電気の売買自由化制度があり、レッテンバッハ村では太陽光発電が大きな収入源になっている。太陽光発電量を競う全国大会で 4 度優勝、そして約 4 軒に 3 軒は太陽光パネルを設置しており高い割合である。今では村で必要な電気量の約 2 倍を発電し一部を販売することで、年間約 15 億円を稼いでいる。

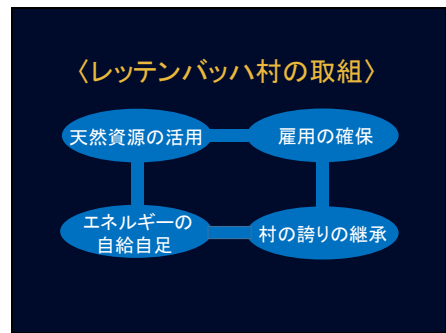
そして四つ目が村民の意識改革である。その方法とは子ども達に村の誇りを伝え、村の運営方法を知ってもらおうということである。レッテンバッハ村では、子ども達に予算を審議する議会の場を与えており、子ども達自らで遊び場などを作るか否かを議論している。このような活動の結果、子ども達は遊び場を大切にするようになり、また、議会の場で皆と相談することでコミュニケーション能力を高めている。その子ども達が大人になることで次世代の子ども達に村の誇りを継承していくのである。

〈結論〉

レッテンバッハ村のこれらの取組には能勢町が復活する上でのヒントがいくつかある。一つは、能勢町でいかにして人や物・お金の地域内循環を生み出すかということ。能勢町ならではの地域資源やノウハウを活用したビジネスが必要である。二つ目には、いかにして次世代の意識改革を達成するかということ。レッテンバッハ村と能勢町は、町の規模や様々な地理的・経済的条件は異なるが、その取組は能勢町地域再生の良い先行事例となる。



(1)



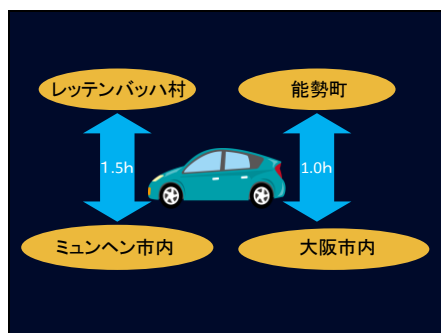
(5)



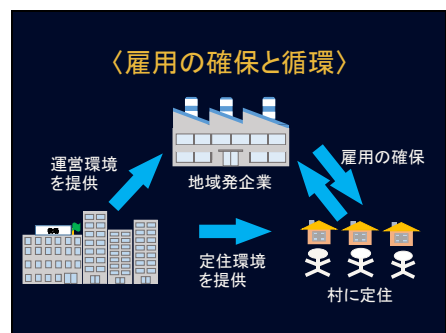
(2)



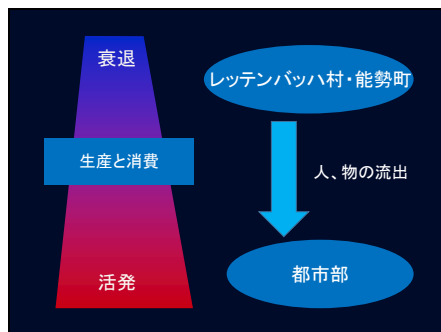
(6)



(3)



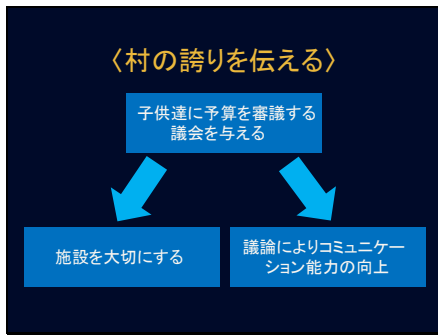
(7)



(4)



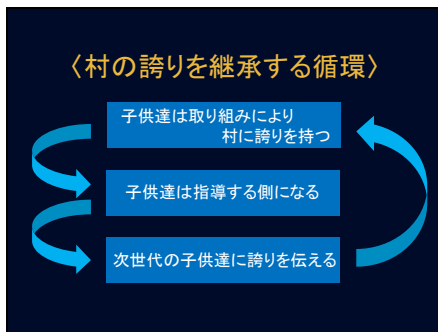
(8)



(9)



(13)



(10)



(14)

〈能勢との比較〉

	レッテンバツハ村	能勢町	
位置	ドイツ バイエルン州	日本 大阪府	
人口	約800人	約10,000人	
面積	12.92km ²	98.68km ²	
産業	木工 機械産業	地酒作り 炭づくり	
発足の経緯	1970年代に合併 →1993年に独立	1956年に、3つの村が合併	
エネルギー	太陽光	発電パネルの整備済み	盛んではない
	バイオマス	薪になる林	炭に使える森林

(11)



(12)